

人権と平和を願う
「茨木市非核平和展」

実施報告書

令和6年8月

実施概要

- 名 称 人権と平和を願う「茨木市非核平和展」
- 日 程 令和6年8月6日（火）～8月11日（日） 6日間
9：30～20：00 ※最終日17：00まで

設営：8月5日（月） 9：00～12：00頃

撤去：8月11日（日） 17：00～18：00頃
- 会 場 茨木市文化・子育て複合施設おにクル
1階 エントランス広場、オープンギャラリー
2階 多目的室

具体的展開

以下のとおり、非核平和展を企画構成および実施いたしました。

<1階 オープンギャラリー>

- 戦時下のこどもたち・昔のおもちゃ体験コーナー
- 戦時下の生活用品等の展示
- 平和のメッセージ
- 原爆被害者の会 語り部DVD上映

<1・2階>

- 平和を考えるクイズラリー
- 受付・運営

<同時開催：立命館大学国際平和ミュージアム企画>

- 押原譲写真展—記録としての写真の世界

<同時開催：子どもたちと考える「戦争と平和」in茨木実行委員会企画>

- 高校生が描いたヒロシマ「原爆の絵画展」
- 戦意高揚の当時のポスター・雑誌等の展示
- 「南太平洋における日本軍侵略と住民」パネル展
- 「満州」への鎮魂
- 展示に関する講演会・DVD上映

<同時開催>

- 小原一真写真展「戦争と感染症」

●受付・運営について

オープンギャラリーの入口付近に設けた受付に、運営スタッフとして平日は1名・土日は2名のスタッフを配置いたしました。（9時～17時30分）

受付では、適宜、本催しのご案内の他、アンケート用紙やクイズラリーの回答用紙、解説用紙、記念品の配布、来場者数のカウントを行いました。また、適宜、各コーナーの巡回・管理等を行いました。

●展示の導入およびアイキャッチとなる演出

オープンギャラリーの入口側には、非核平和展のタイトルが見えるようにご案内を設置しました。また、特に小学生以下のこどもの興味を引くように、遊びコーナーのエリアや、ガチャガチャ等がまず視界に入るようにしました。

おにクルの屋内こども広場「まちなかの森 もっくる」の出入り口前となる位置へはメッセージコーナーのピースツリーが大きく展示され、ご来場の皆様の関心を引くようにいたしました。



● 戦時下のこどもたち（実物展示、おもちゃ展示、遊び体験）

戦時下の生活は、どんなものだったのか。子どもたちにも分かりやすい身近な話題である衣服やおもちゃ等を切り口に、戦時下の生活と今の生活とを比べることで戦争について知っていただくきっかけといたしました。

○生活用品等の展示

戦時下の主な服装であったもんぺと防空頭巾についてトルソー展示をおこないました。また、茨木市立文化財資料館さまよりお借りした水筒や灯火管制の傘などもあわせて展示し、より想像をしていただきやすいものとししました。

○戦時下のいばらき

戦時中、茨木市も空襲の被害を受けました。その内容をご紹介するパネルを生活用品等の展示の近くに設置し、より身近に考えていただけるきっかけとしました。

○おもちゃ展示

こどものおもちゃには戦時中の世相が色濃く反映されていました。その内容が分かるような双六とカルタの展示をしました。また、実際に触っていただいても問題ないように、全てレプリカでの展示としました。

○体験コーナー

展示の内容にあわせて、実際に体験することから学習していただけるコーナーを設置しました。

被っていただける防空頭巾や、昔のおもちゃとしてけん玉やお手玉、ヨーヨーを設置し、積極的に触っていただきました。

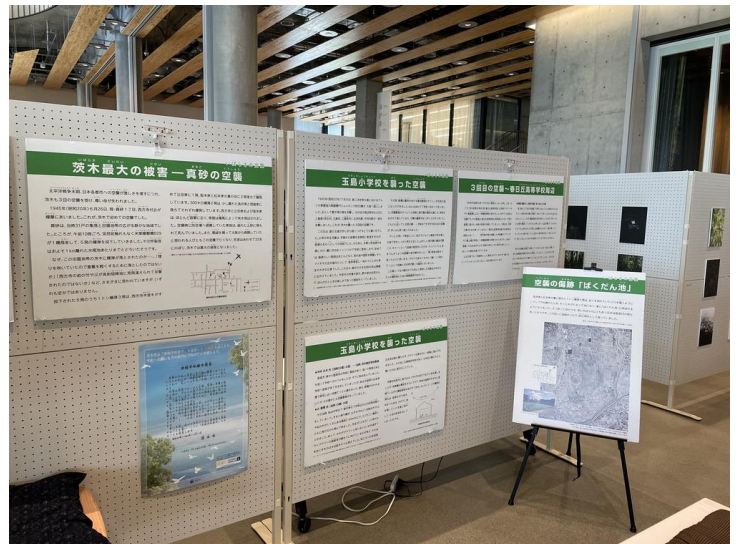
○生活用品等の展示

右) 茨木市立文化財資料館 所蔵の綿入れ、千人針、ゲートル、水筒等。

下) もんぺ・防空頭巾展示



○戦時下のいばらき パネル展示



○おもちゃ展示、体験コーナー

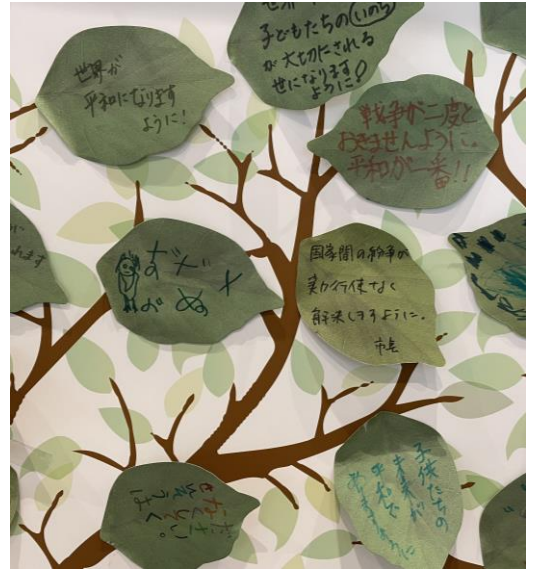


当時の子ども達の暮らしについて説明するパネルや、敵性語とされたカタカナの言い換えを確認できる「敵性語めぐり」や戦時下の食生活の分かる資料も展示しました。



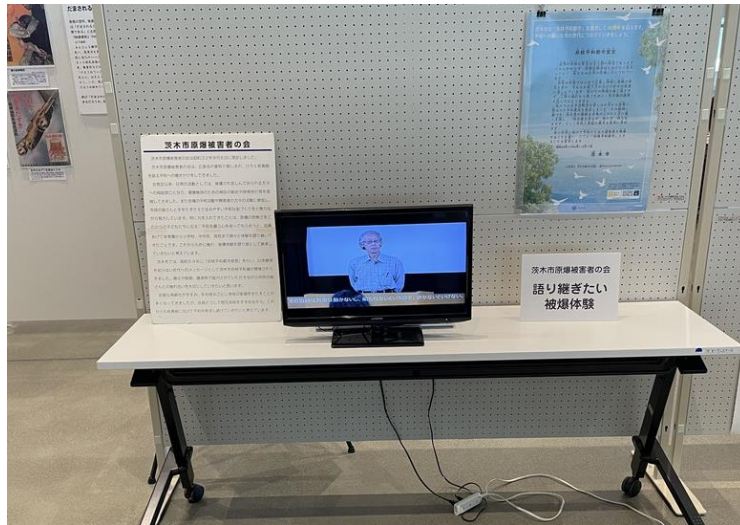
● 平和のメッセージ みんなで作るピースツリー

葉っぱの形をした付箋にご来場者にご自由に平和を願う「メッセージ」を書いていただき、随時、ツリーに掲示していただきました。



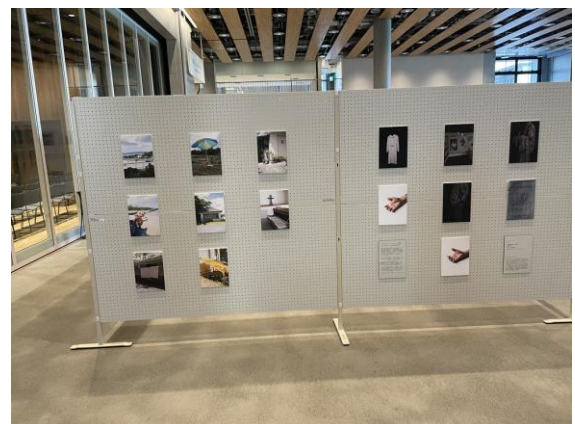
● 原爆被害者の会 語り部DVD上映

茨木市原爆被害者の会の皆様による被爆体験の語り部DVDを上映いたしました。



● 小原一真写真展「戦争と感染症」

茨木市在住の写真家、ジャーナリスト、小原一真氏による写真展を開催しました。沖縄のハンセン病患者・回復者の過去100年にわたる個人の歴史を写真で伝えました。



●平和を考えるクイズラリー

より深く事業の意図を考えていただくため、また1階と2階にフロアのわかれている会場をつなぐ動線づくりに効果的なクイズラリーを実施いたしました。

各コーナーの展示物の中にヒントが得られ、子どもたちにも理解できるような内容といたしました。

回答者には、簡単な記念品を差し上げました。ガチャガチャを使用してお渡ししたことにより、こども達の関心を引き、積極的にクイズラリーに参加していただきました。



● 立命館大学国際平和ミュージアム企画 押原譲写真展―記録としての写真の世界

報道写真家、押原譲氏が訪れた1970～2000年代のカンボジア、他意、サラエボ、東チモール、ガザなどの写真展を開催しました。そこに生きる人々の声を聞き、生活を伝えることで平和を訴えようとされてきた写真の数々をご紹介します。



● 子どもたちと考える「戦争と平和」 in 茨木実行委員会企画

1階オープンギャラリーでは、高校生が描いたヒロシマ「原爆の絵画展」や、戦意高揚の当時のポスター・雑誌等の展示をされました。

2階多目的室では、「南太平洋における日本軍侵略と住民」パネル展や、「満州」への鎮魂、展示に関する講演会やDVD上映をされました。



来場者等集計

○各参加者数（9時30分～17時30分）

月日 (曜日)	来場者数	アンケート 回答数	クイズラリー (こども)	クイズラリー (大人)	ピース メッセージ
8/6 (火)	206名	61名	48名	31名	32名
8/7 (水)	314名	90名	32名	16名	50名
8/8 (木)	253名	37名	45名	12名	25名
8/9 (金)	371名	72名	67名	23名	21名
8/10 (土)	273名	52名	53名	11名	16名
8/11 (日)	457名	66名	64名	12名	42名
合 計	1,874名	378名	309名	105名	186名

○来場者数（内訳）

月日 時間	8/6 (火)	8/7 (水)	8/8 (木)	8/9 (金)	8/10 (土)	8/11 (日)
9 : 30-	14名	24名	17名	17名	13名	26名
10 : 00-	22名	38名	30名	37名	22名	31名
11 : 00-	38名	43名	47名	61名	40名	71名
12 : 00-	48名	31名	34名	72名	33名	78名
13 : 00-	25名	24名	45名	53名	33名	80名
14 : 00-	22名	26名	30名	51名	64名	73名
15 : 00-	13名	44名	22名	34名	21名	48名
16 : 00-	13名	61名	19名	37名	29名	50名
17 : 00-	11名	23名	9名	9名	18名	
計	206名	314名	253名	371名	273名	457名

○記念品配付数 先着順

イワコー消しゴム 300個（各日先着50名、余った場合は翌日分に追加）

